

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年3月17日

事業所名 療育ケアMARINE RAINBOW 久留米高校前

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	1	6		・状況や特性に応じて場所を変える工夫は必要と感じる。・児童数に足して、スペースが狭いと思う。→面積上は問題ないが、利用児童様の特性や置かれている状況に応じて環境を工夫していきたい。
	2	職員の配置数は適切である	1	6		・送迎職員が足りていない。・送迎時に手薄になる時がある。・1Fと2Fで分ける為の職員が不足。→配置上は問題ないが、入ってくる報酬に限りがあるため、できる範囲で支援の質の観点から職員を増やせるように努めていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	5		・階段(段差)が多い。→安全対策を行っている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1	6		・振り返りの時間があまりなく、職員も限定的となってしまう。→今後、全体会議の時間をもう少し設けていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	4		・今回はじめて実施するため、今後行う。 ・保護者様より何度も同じ意見をいただいている(忘れ物等)。→忘れ物等が出ないように送迎前などに職員間での確認を徹底する。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	5		・自己評価の結果については開所したばかりで今回がはじめてのため、今後、ホームページにて掲載していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	6		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	1	6	・必要に応じて研修を実施している。	・開所したばかりのため、今後、研修の機会を増やしていきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	0		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	4		・今後、改善が必要になってくる可能性はある。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	1	6		・OT、保育士が中心となっている。 ・全体でのプログラムの立案は不十分。→今後、立案方法を検討していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	2	5		・開所したばかりのため、来年度より行っていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	5		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	3		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	4		・連携が不十分。非常勤の職員は、紙面上での確認の時間がある。→管理者を中心に、情報共有の時間をさらに設けていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	3		・業務終了後に実施。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	0		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	5	2			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	5	2		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡 調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連 絡)を適切に行っている	5	2		・詳しい部分までの共有ができていない学校がある。 ・できていない学校とそうでない学校がある。 →各学校様の方針に沿いながら、管理 者を中心に情報共有の方法を見直す。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている	0	7		・現状、該当児童がいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	4	3		・児童発達支援利用の児童さんは行っている。 ・他事業所との連携は希薄。→今まで以上に連携でき るように工夫していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行す る場合、それまでの支援内容等の情報を提 供する等している		7		・現状、該当児童がいない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セ ンター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	3	4	・電話での申し送 り実施。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある		7		・コロナ感染症の状況を鑑みて、今後、実施して いきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している		7		・コロナ感染症の状況を鑑みて、今後、参加して いきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	5	2		・送迎時は伝えているが、電話連絡はあまりない。→ 必要に応じて、こまめに情報共有を行っていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている	1	6		
保護者への説明 責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	4	3		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談 に適切に応じ、必要な助言と支援を行って いる	5	2		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している		7		・コロナ感染症の状況を鑑みて、今後、実施して いきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	5	2		・職員によってバラつきがある。→今後、管理者より職 員の指導教育を行い、バラツキのない対応を行えるよ うに努めていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	2	5		
	35	個人情報に十分注意している	7	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	6	1		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地 域に開かれた事業運営を図っている		7		・コロナ感染症の状況を鑑みて、今後、実施して いきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	5	・事業所にマニュアルを備え付けている。また、訓練については必要に応じて実施している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	2	・年に2回、避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	1	・虐待防止委員会の設置・研修等を実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	3	・契約時にご説明をするようにしている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	2	・保護者様よりアレルギーに関する説明書を記載いただいている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	4		・新規開設事業所のため、現在、事例を収集集中。